



センター試験出願

大学入試センター試験の出願が迫っている。今年は10月1日(月)～10月12日(金)が出願期間となっている。3年生はすでに願書を書き、受験料の振り込みを終えて担任に出願書類を提出した。校内での最終チェックの後、秋休み中に学校でとりまとめて発送する予定となっている。センター試験まであと16週あまり。いよいよ本格的に受験が始まる。

1・2年生はまだまだ先のことに感じるかもしれないが、確実にその日はやってくる。1年後・2年後の自分は受験を迎える準備ができているだろうか、想像してみよう。

54期生が受験するセンター試験は、来年1月19日(土)・20日(日)の2日間で実施される。本校の出願者は、鹿児島大学会場等で受験する予定だ。センター試験は、マーク形式の試験であり、国公立大学入試の一次試験としての役割のほか、私立大学入試等にも利用されており、全国で50万人を超える受験生が受ける試験である。大学や学部学科によって必要な科目や配点が異なるので、事前によく調べておく必要がある。1・2年生も、全クラスの本棚に並んでいる『蛍雪時代』を手にとりて確かめてみよう。

「静」の後期 進路研究を深めよう!

— 1・2年生 —

学校行事の多かった「動」の前期が終わり、10月からは落ち着いて学習に取り組める「静」の後期が始まる。後期の1年生の課題は「文理コースの選択」、2年生の課題は「志望校の決定」である。

1年生にとって、文理選択は高校入学後初めての進路に関する大きな決断になる。最終的に自分自身が納得した選択ができるよう、進路研究を十分に深め、自分から保護者や先生方、上級生のアドバイスをもらいに行くなどして、よく検討して行ってほしい。その際、先日のLHRで使用した、『キャリアプランニングノート』81頁のワークシートを活用してほしい。文理選択に関する思考を文章化し、目に見える形にすることも有効な方法である。

2年生の秋は志望校を絞り込む時期になる。志望校を決めるのはまだ早いと思っている人もいるかもしれないが、「将来の夢」や「行きたい大学」など、明確な目標を見つけることは、学習意欲の向上につながる。このことから、早い段階で志望校を決定することの大事さが分かるだろう。インターネットサイト「マナビジョン 保護者版」によると、難関大合格者は約6割が高2のうちに志望大を決定しているようだ。またそのうち4人に1人は、高2以前から志望大を決めていることも示されている。

ちなみに、東進ハイスクールのHPには、高1で受験勉強を始めた人と、高3で始めた人は、センター試験の平均点で54.1点の差がついていることも紹介されている。

模試の理想的な復習法

1年生は、初めての模擬試験の結果をどう受け止めたのだろうか。3年生は回数が多くて大変だが、全学年に共通して大切なことは、「ちゃんと復習する」ことだ。ここで模擬試験の復習の仕方について、「マナビジョン」に掲載されていた内容を紹介する。

■1回目—受験してすぐ(翌日～3日後)

模試当日にざっと見直して「正答だがあやふやだったところ」「間違えたところ」を洗い出し、模範解答を見ながら解き直します。

■2回目—受験後1～2週間後

1回目の復習ポイントを中心に、再度見直しをして知識を定着させておきます。

■3回目—成績表の返却時

合格可能性判定を確認し、志望大の合格ラインまであとどれくらいなのかを客観的に把握しましょう。次に教科・科目別のアドバイスをチェックし、今後の学習計画の参考にしましょう。

大学入試は、中学校までに学んだ知識や身につけた計算のスキルなどが十分にあることが前提であるため、小中高12年間の学習の成果が問われる試験であると言える。その都度の復習の質を高め、積み上げてきた12年分の力を十分に発揮できるようになろう。

その1 「1年では学習の基本を大切にしたい」

本校を今年卒業した53期の大学生のNとKに高校1年の時に文理選択をどのようにして決めたかを聞いてみた。Nは「将来の職業と大学の志望学部を決めていたので、スムーズに文理選択はできていた。しかし、理系に行く決めていたが、1年での数学が完全に理解できないままだったので、2年生になってから授業についていくのがとても大変だった。もう一度1年の数学に戻って最初から復習したのが良かった。こんな思いをするのであれば1年でしっかり数学をやっておけば良かった」と…。そして、2人とも『やはり1年では国語・数学・英語についてはちゃんと基本ができていないといけない。例えば、英単語や国語の古文の単語は1年でしっかりと覚えておく。1年の数学も文系理系問わず基本を押さえておく。』と、1年生に強く言うておいて」と念を押された。

その2 「好きなことは諦めずに最後までやり遂げる」

本校50期のMからS航空（東南アジア諸国）の客室乗務員（CA・キャビンアテンダント）の就職試験を受けるので、担任の推薦が欲しいと連絡が入った。このMの人柄など申し分なかったため、快く引き受けて返事をした。するとしばらくして電話連絡が来た。「申し訳ないのですが、S航空の就職試験を受けませんでした。しかし、A航空（日本のCAに内定をいただきました。」本当に驚き、お互い喜んだ。

このMは1年の時に私が担任をした生徒で、自ら進んで委員長を引き受けてくれ、クラスをまとめ、盛り上げてくれた。また、いつも笑顔を絶やさない生徒であり、卒業してからも同窓会の幹事もして、常に周りのことを気遣ってくれた。そのMが1年生の時からCAになりたいと希望していたので、「だいぶ難しいと思うが、諦めずにいこう。」と声をかけていた。学力的には少し難しいと思っていたが、大学でも友達もたくさんつくり、充実した大学生活している様子を伺い、将来を楽しみにしていた。そして、今回の嬉しい報告だ。このことを今の生徒にも教えたいので、アドバイスをお願いした。次の文がMからの返事である。

私は優等生ではなく、課題をさぼりがちでした。しかし、これではいけないと思い、中央高校で出される課題を本気で取り組みました。おかげで、大学進学に問題はなかったと思います。そして、今の自分がいると思います。

まず『やってよかったと思ったこと』

① 課題をやりきる

出されたものに対して、自分で考え、訂正して提出できていれば、大学に入ってから苦勞する事は少なかったのかなと思います。

② 苦手分野ほど極める

（文系だったので）理系科目から逃げて逃げていたので、就活で苦勞しました。（SPIという試験で数学を使います）なので、苦手分野もしっかりと取り組んで欲しい。

③ 多くの大学を知る

大学入学までの過程をしっかりと理解しておいたら、勉強方法も変わってたかなと思います。当時はセンター試験と聞いて何が何だか分かりませんでした。

次に『高校時代から考えていたり、実践したりして良かったこと』

① 夢を持っていた

どこの会社の何になりたいと目標があったので、進路がサクサク決まりました。

② 何が好きか、何にときめくかを考えること

①を決めるにはこの事を明確にしておく事が将来の夢を決める1つの手だと思います。夢が明確だったからこそ、私の客室乗務員に対する気持ちはブレなかったと思います。

③ 学校行事は全力で楽しむ

高校時代の**体育祭**は今でも忘れられません。就職活動を通して行った自己分析でとても役に立ちました。」



最後に、もうそろそろ文理選択について考えなければならない。短絡的に教科の好き嫌いで、特に嫌い・苦手を決めることは禁物である。また、興味関心もないのに大学の学部学科や職業で判断する。例えば、「数学が苦手なので文系に進む」とか「国語や英語が嫌いなので理系」とか。また、「大学に合格しやすいのが理系だから」「文系は科目数が少ないから楽だ」とか、さらに「理系は就職に有利である」「資格を取る学科である」とかで決めるのは危険である。

大学入試については国語・数学・英語は主要教科であり、基本教科である。地歴・理科についても同じである。文系でも、必ず数学は受験教科として必要なため、数学を苦手として解決をしないままでは入試に対応できない。また、将来を見据えて、仕事を決めて欲しい。これから10年・20年先はどうかかわからない。AIなどの進化は凄まじいものであり、就職の有無だけで文理選択は厳しいものである。やはり、将来においても続けられる魅力のある仕事は自分自身にとって、何かをもう一度考えて、文理選択を決めてもらいたい。

（参考資料：本校の『進路の手引き』28ページ、『キャリアプランニングノート』26ページ）

3 年生が部活動を引退して数ヶ月が過ぎた。どの部も新チームで夏を乗り越え、2 年生主導の練習も軌道に乗ってきたところだろう。

中央高校では、入試の面接で高校生活の目標を聞かれて「文武両道」と答える人が多い。勉強も部活動も両方とも頑張りたいという思いを持って入学し、この9月で高校生活のちょうど折り返しの時期を迎えることになるが、5 5 期生は今、去年の4月に自分が理想として思い描いていた高校生活を送れているだろうか。

今年の春、甲子園で行われた選抜高校野球に、21 世紀枠として滋賀県立膳所（ぜぜ）高校が出場した。中央高校と同じく SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されている、滋賀県内トップクラスの進学校である。甲子園では残念ながら初戦敗退であった。ただ、単に進学校だからという理由で21 世紀枠に選ばれたのではなく、県大会等での実績もきちんと評価されての甲子園出場は素晴らしいことだと思う。

この膳所高校の野球部のスローガンが「文武連動」。初めて聞いた言葉であったが、なるほどと思った。両方頑張るという意味での「文武両道」を超えて、勉強と部活動はつながっているという「文武連動」こそ、自分たちも目標として掲げるべき言葉なのではないか。

勉強と部活動は共通することばかりだ。どちらも大事なことは「考えること」と「反復すること」。

自分たちが今何を意識して頑張るべきかを考えず、ただただがむしゃらにする努力に結果が着いてこないのは、勉強も部活動も同じだ。宿題だからやる、予習をしないと怒られるからやる、という姿勢でどんなに勉強しても学力は伸びないし、顧問の先生に言われたからやるというスタンスの練習は、どんなにきつくても競技力の向上にはつながらない。教科担や顧問の先生の指導に素直に耳を傾けつつも、今自分がやっていることの意味を自分なりに考え抜いて、その効果と目標到達点を明確にイメージしたうえで行われる努力こそが成長につながる。

勉強の面で、多少の理解力があっても、日々の演習等で反復することを軽視する人は成績が伸び悩む。これも部活動に共通することだ。いくらセンスがあっても、練習嫌いの人は最後には厳しい練習を積み重ねた人に勝てない。やるべきことを理解したうえで、定着するまでは徹底して反復することをやりきった人だけが、成長の実感をもてる。

そういう理想の形に少しずつでも近づけるように、5 5 期生には勉強も部活動も両方に全力で立ち向かってもらいたい。「勉強はちょっと手を抜いちゃったけど部活は全力でやって結果を出しました」とか、「大学進学が希望の優先だから部活動はほどほどにやって勉強には全力を出して合格を勝ち取りました」とか、その方が楽なように見えるかもしれないが、残念ながらそういうことは有り得ない。両方を妥協せずに必死にやるからこそ、伸びる人は両方が伸びる。

勉強で、なかなか結果が出ずに苦勞して、試行錯誤して周りにも相談して、学力を高めるための自分なりの秘訣を何か掴んだ人は、必ず同時に部活動で競技力を高める方法が身につけている。その逆も同じだ。

部活動で、勝てない理由を練習時間の少なさや練習環境の悪さのせいにしていつまでも競技力が高まらない人は、成績が伸びない理由もいくらでも見つけてしまうだろう。

勉強と部活動は連動している。成績が伸び悩んで苦しんでいる人は、ぜひ部活動で全力で勝ちにいてほしい。部活動で結果を出せずに悩んでいる人は、ぜひ次のテストでの結果にもっとこだわってほしい。中央高校での残り1 年半、後半戦が、5 5 期生の人生にプラスになるような掛け替えのない時間となることを切に願う。



勝負の後半戦へ！ 秋からの受験勉強スケジュール ～ 第一志望校合格に向けての「学習戦略」～

高校生活最後の体育祭、第56回体育祭は天候には恵まれなかったものの無事終了。

応援団の演舞は勿論、全種目で声をからしながら応援する姿、全員で肩を組んで校歌を歌う君たちの姿は印象的であり感動的でもありました。さすが3年生、さすが54期生。君たち全員が見せてくれた学年としてのまとめ、君たちのひたむきな姿は後輩たちに、何か大きなメッセージを残してくれたと思っています。感謝です。お疲れ様でした。

さて、秋休みが明けると、いよいよ受験勉強は後半戦に突入！ 受験生生活も折り返し地点を過ぎ、大学入試センター試験まで約4か月、国公立大の前期試験まで5か月強というところまで来ました（10/1現在で「センター試験」まで110日、「国公立大学前期日程試験」まで145日）。全国を受験生全員が目の色を変えて、勉強により一層力を入れる後半戦。

これまでなんとなく勉強してきた人はもちろん、戦略を立てて勉強してきた人も、残された時間でどのように志望校合格へとアプローチしていくべきか、本格的な追い込みをかける前に、いま一度考えてみるのが大切です。第一志望校合格という最高の結果を勝ち取るためには、残された時間をシビアに意識しながら、これまで以上に時間と成果を意識して、戦略的に学習を進めることが重要になります。ここでポイントをしっかりと押さえておきたいものです。

1. 高校3年生の秋以降こそが、真の戦いの時期である

高校3年生の夏が受験勉強における「天王山」とよく言われる。これも真実だが、「進路室便り8月特別号」にも書いたように、実際には秋以降からが真の戦いであり、合格を信じて、これからのラストスパートを「死に物狂い」で追いかけた受験生が「合格」していく。大切なことは「覚悟」を決められるかどうかである。

2. まだまだ成績は伸びる（現段階での判定はあくまでも参考程度に！）

これまで本校生徒を見てきた立場から言わせてもらえば、ラスト数ヶ月、この時期こそが成績をもっとも伸ばす時期である。覚悟を決めて本気モードで勉強をしている時と、そうでないときの集中力はまるで違う。今後は54期全員が本気モード。「センター試験」まで必死に頑張る、これ以上はムリかな…とであっても、自己採点后に明らかになる現実をしっかり向き合うことのできる受験生は、驚くべきことに、更にもう一段ギアが入る。

3. じゃあ、どう勉強するか

一般的に、高校3年の秋以降は、『得点力UPを図る時期』であり、「それまでにやってきた事の復習をするべき」とか「本番で高得点を取るために、過去問に取り組むべき」とも言われるが、あくまでも「**受験勉強のベースは『授業』**」であり、我流の勉強は避けなければならない。大学受験は、「受験科目の総合点」で合格が決まる。志望校の過去問で傾向を把握した上で、自分にとって多くの「伸び」をもたらしてくれるのはどういう学習なのかを考えて、自分なりの学習パターンを明確にしておきたい。次の2点について明確に意識しておくことが、これからの受験勉強の過程で生じる「迷い」をなくしてくれるはずである。

- (1) 「得意教科を伸ばすこと」と「不得意教科を克服すること」のどちらを優先するのか
- (2) 「センター試験向けの勉強」と「2次試験向けの勉強」にかかる時間のバランスをどうとるのか

「マーク模試で安定した得点がとれているかどうか」も1つの判断材料にはなる。今年の入試日程は、センター試験終了後から国公立大学前期日程試験までが約1ヶ月と例年より短いため、「二次試験対策はセンター試験が終わってからでいい！」などと考えるはいけないうし、マーク式の問題演習のみを、ただこなしていくことも避けたい。教科の本当の力がつくのは記述式の勉強。解答を導く過程や出題者が要求している解答を意識して作る作業は面倒くさいけれども、避けてはダメ。

最後に…

現時点で、「この科目さえ、もう少し成績がよければ、合格できるのに…」という状況なら、粘ってみるだけの価値は十分にある。実際の試験では、わずか1、2点の差で合格は決まる。合格ラインの前後には、すさまじい数の受験生がひしめき合う。「覚悟」を決めて最後の追い込みの時期を乗り切れば、

現状は必ず打破できるはずである。受験生の多くが本番の試験が終わったときにこう思う。「意外と解けたな…。こんなんだったら、あの時諦めずもう少しやっつけば良かった。」だから、今この時期に合格を諦めるのはあまりに早すぎる。自分自身を信じる。絶対に合格するという気持ちを持つ。合格するんです。必ず合格するんです。

